

作業手順書

場所: 青森厚生病院

作業: 看護補助作業

1. 作業準備・心がまえ・手洗い
2. ベッドメイキング・環境整備
3. 配茶・下膳
4. 清拭・病衣交換
5. 後片付け

作成者: 一般財団法人双仁会 青森厚生病院

初版作成: 平成30年3月19日

最終更新: 平成30年3月28日

作業前準備・心がまえ・手洗い

身だしなみ・心構え

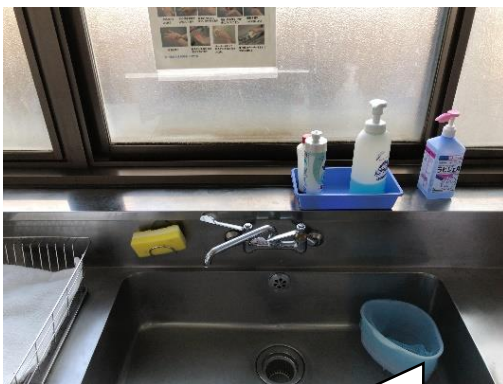


- ・決められた服(ユニフォーム)を着用し、身だしなみを整える。
- ・髪は肩から下に降りないようにまとめる。
- ・爪は短く切りそろえる。
- ・作業中はディスポ手袋を着用する。

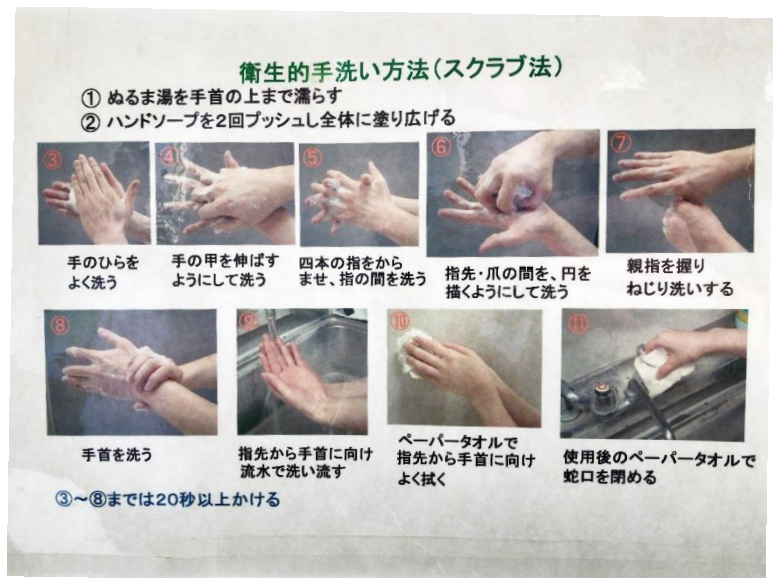


- ・医療に携わる者の自覚を持ち、患者を尊敬する姿勢と態度を示す。
- ・患者にとって良いことは何かを考える。
- ・嘘をつかない、約束を守る。
- ・適切な言葉遣いを心がける。
- ・良好なコミュニケーションがとれるよう心掛ける。

手洗い





休憩後や作業完了後には必ず手洗いを行い、手指の清潔を保つようにする。



ベッドメイキング・環境整備

1. 準備

目的	<ul style="list-style-type: none">・新たな患者の入院に備えた準備・病床の乱れを直して患者の安全を守り、安楽にする。・乱れた寝具を清潔なものと交換して、患者に新鮮さと爽快感を与える。・患者の周辺に危険がないかの点検・安全な療養環境作り
対象	<ul style="list-style-type: none">・全患者
道具	<ul style="list-style-type: none">・ディスポ手袋・ぞうきん・バケツ・水モップ・モップバケツ・洗剤(マイペット)・消毒用エタノール・掃除用ガーゼ・リネン類(シーツ、ベッドパッド、枕、掛ふとん(冬場は毛布も準備する))  



ぞうきんは「オーバーテーブル」と書かれたものを使う。



モップバケツの水は黄色いシール「水5リットル」のところまで入れる。



リネン類は廊下の収納から使うものだけを取り出す。

■ ベッドメイキング・環境整備

2. シーツはずし



作業に入る前に窓を開ける(冬は少しだけ)

ふとん、まくら、毛布などのカバーをすべてはずす。ふとんは紐をほどいてはずす。



はずしたリネン類はシーツ類とその中身に分ける。



最後にシーツをはずし、ベッドパッドを取る。



ふとん、ベッドパッド、枕などの使用済みリネン類の中身を台車にのせておく。



使用済みシーツ類は「寝具」回収袋に入れる。

3. 清掃作業①



水を半分入れたバケツでオーバーテーブル用ぞうきんを絞る。



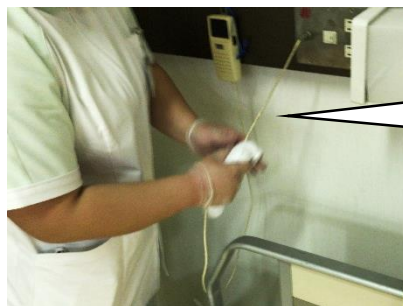
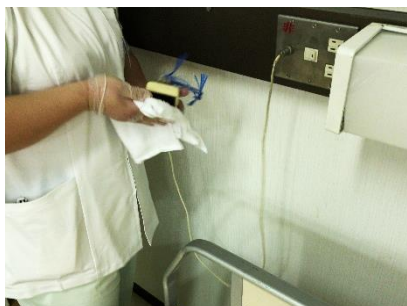
オーバーテーブルとテレビ台の引き出し面をふく。



マイペットをキャップ1杯分入れ、ぞうきんを絞る。



ベッドの全ての手すりと、ベッドライトをふく。



ナースコールとケーブルをふく。

3. 清掃作業②



マイペットで薄めたバケツの水で、もう一度ぞうきんをすすいで絞りなおす。



オーバーテーブルの上・横・前と引き出しの中をふく。



掃除用ガーゼにエタノールを含ませて、冷蔵庫の中をふく。



④

①テレビカードの抜き忘れ
②ケーブルの巻き取り
③リモコンの置き位置
④冷蔵庫電源オフ
上記完了を確認する。



クローゼットの中をぞうきんでふく。
下の棚の奥に忘れ物が残っている事があるため、注意して清掃をする。

作業終了後、開けた窓は閉める

3. 清掃作業③



モップバケツの水で、モップを強めに絞る。



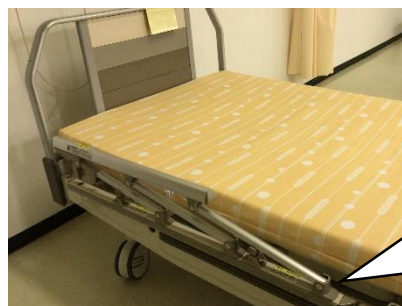
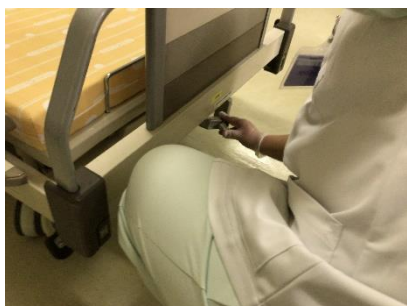
床面をモップでふいていく。



テレビ台を動かしてふく。終わったらテレビ台を元に戻す。



ベッドも動かして床をふく。終わったらベッドを元に戻す。



最後にベッドのリクライニング角度を確認して、平な状態にする。

4. ベッドメイキング①



ベッドパッドをマットレスの上に重ねる。



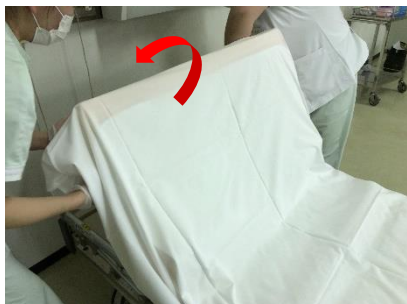
シーツを二つ折りの状態でベッド真ん中から片側に置く。



重なったシーツの一枚だけを、マットレスの下に折り込む。

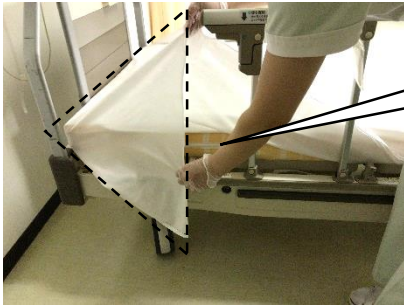


反対側もベッドの真ん中だけシーツをマットレスの下に折り込み、シワを伸ばす。

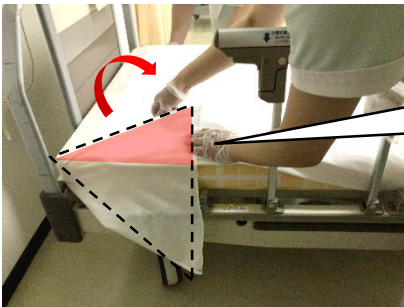


頭側のマットレスをを起こして頭側の余ったシーツを折り込む。

4. ベッドメイキング②



写真のようにシートで三角形をつくる。



三角形の上側、ピンクの部分を手でベッドにおさえる。



三角形の上側、ピンクの部分をおさえたまま下側をマットレスの下に入れる。



おさえていた三角形の上側をマットレスの下に入れる。

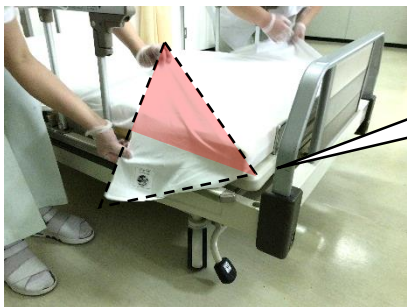


シートのしわを伸ばしながらマットレスの下に余ったシートを入れて仕上げる。

4. ベッドメイキング③



足側のマットレスを持ち上げ、余っているシートを入れる。



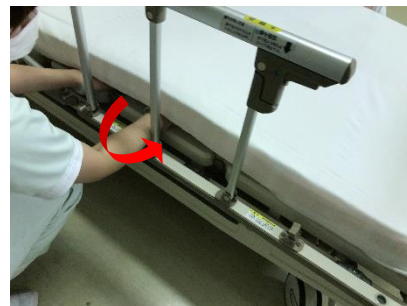
頭側と同じようにシートで三角形を作る。



上側を手でおさえながら下側のシートだけをマットレスの下に入れる。



三角形の上側もマットレスの下に入れ、形をととのえて完成。



ベッド全体を確認して、シートが余っている部分やシワが寄っているところを整理する。

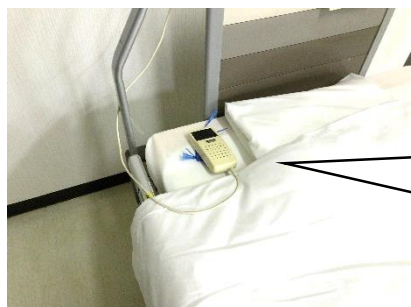
■ ベッドメイキング・環境整備

4. ベッドメイキング④



新しいリネン類にカバーをかぶせ、ベッドに配置する。

特にふとんなどの結び目があるものは、結び目が入口向きにならないように注意する。



ゴミ箱にゴミがある場合は捨てておき、ナースコールを枕元に配置し、ベッドメイキング終了。

4. ベッドメイキング: ベッド種類について

ベッドには3種類あり、ベッドごとに使用するリネン類が異なる。

※共通: 冬は毛布を追加する

※共通: 患者によっては防水シートを追加する

ベッド	使用するリネン類
通常マットレス (本手順記載のマットレス)	枕、シーツ、ベッドパッド、ふとん
オムニマット	枕、シーツ、ベッドパッド、ふとん
エアーマット	枕、シーツ、ベッドパッド、ふとん 専用エアーマットカバー



エアーマット



エアーマットカバー

■ ベッドメイキング・環境整備

4. ベッドメイキング⑤ リネン片づけ



病棟洗濯室で使用済みリネンの回収袋の中身が多くなった場合、地下のリネン庫に運ぶ。



使用済みリネンは地下1階の洗濯室にまとめる。空の回収袋は持って戻ること。



ふとん、ベッドパッド、枕などは台車にのせて地下1階の消毒室に運ぶ事。



指定された場所に畳んで重ねること。使用済み台車は病棟へ運んで帰る。

4. ベッドメイキング⑥ ポータブルトイレ清掃



ポータブルトイレのフタを開けて、使用されているか確認をする。汚物が入っている場合は清掃を行う。



尿がめに入った汚物を汚物流しに流す。



トイレハイターを入れ、ブラシでこすって汚れを落とす。何度か水で洗い流して目立つ汚れがないようにする。

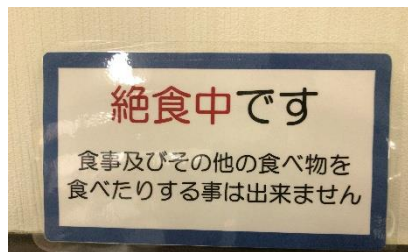


本体に尿がめを戻して、水を半分、トイレハイターキャップ1杯を入れて30分置く。30分後に水を捨てる。



尿がめ以外の本体は、使い古したトイレ掃除用ガーゼにエタノールを含ませてふく。

1. 配茶



飲み物 ○



飲み物 ×

絶飲食中の患者には飲み物の提供はできない。



配茶用ワゴンは準備したものがエレベーター前に置いてあるので、それを利用する。

看護師が配膳に行くので、配茶ワゴンを押してついていく



患者にお茶が良いか水が良いかを確認して、配茶作業を行う。
患者の私物のコップがある場合にはそのコップにお茶または水を入れる。



コップが無い場合には、配茶ワゴンにある紙コップを使う。



お茶は非常に熱いので「熱いので気を付けてください」と声をかけてトレイに置く。

2. 下膳

食事時間終了時、または時間前に食事を終えた患者の食事トレイを下げる。

※食事トレイは配膳車に戻していく。

※戻す際残った食事量を確認して、看護師に報告をする。

※報告時には「主食全、副菜半分」のように主食と副菜の食べた量を伝える。

食事量の例



「主食全、副菜全です」



「主食、副菜どちらも食べていません」



「主食全、副菜はほとんど食べていません」



「主食三分の一、副菜三分の一です」

※副菜は、何品かあるので副菜全体でまとめてどれくらい食べたかを伝える。

※三分の一などは慣れるまで確認をする。

■ 清拭・病衣交換

1. 準備



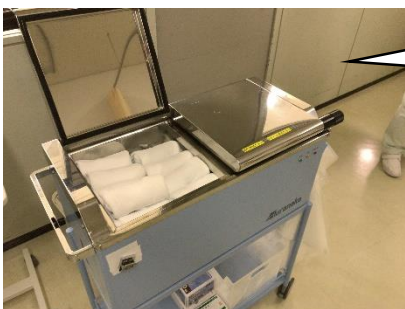
病棟通路の収納に病衣が保管されている。
サイズごとに色分けして分類されている。



病衣の上着エリとズボン裾の色でサイズを確認することができる。



病衣交換時には入浴に使うバスタオルも一緒に交換するので、病衣とバスタオル2枚を準備する。



清拭に使う温タオルは事前に準備されているものを使用する。

病衣の着脱について

※患者によっては身体に麻痺(まひ)がある場合がある。

※その場合、脱ぐ際には麻痺の無い健側(けんがわ)から、着る場合には麻痺がある患側(かんがわ)から着るようにすること。

※これを「脱健、着患(だっけん、ちゃっかん)」と呼ぶ。

2. 清拭・病衣交換①

病衣を脱がせる

※患者に麻痺があるかどうかは事前に看護師または先輩看護助手に確認をする。

清拭の順番

※粘膜にふれず、汚れの少ない部分から清拭をする。

※①首→②上腕→③胸→④腹→⑤背中→⑥下肢→⑦腰→⑧臀部

※身体のどの部分まで清拭が必要かについても事前に確認をしてから作業をする。



清拭用タオルで身体をふいていく。

ふく位置を変えるごとに清拭タオルを新しい面に変えながらふいていく。

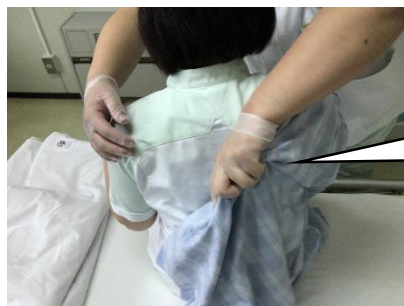
着せる際の注意点

※患者によっては残存機能を使って自分自身でできる範囲があるので、できない部分の手伝いをするようにして声をかけながら進めていく。

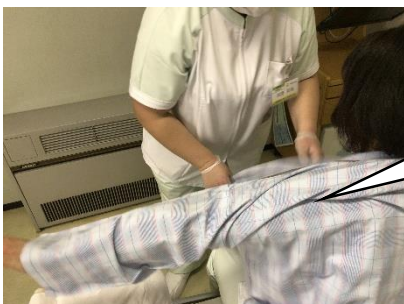


上着から着せていく。

袖を通しやすいように袖をまとめてから患側から袖を通す。



背中側から上着を回して、反対側の袖に腕を通す。



肌着の袖が巻き込まれていないか確認しながら両方の袖を通してととのえる。

■ 清拭・病衣交換

2. 清拭・病衣交換②



上着の向かって右側(患者からみて左側)の紐を蝶結びにする。



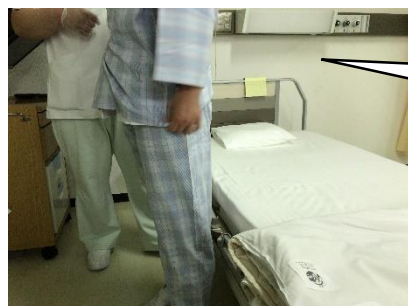
上着の向かって左側(患者からみて右側)の紐を蝶結びにする。



ズボンの裾をまくってはきやすくしてから、患側の足から入れていく。



反対側のズボンの裾をまくって、はかせていく。



ズボンを腰まで上げてはかせて終了。

■ 後片付け

使用したタオル・バケツ類の片づけ

使用した道具類について

※ディスポ手袋は使い捨てのため、一作業ごとに廃棄、交換すること。

※次の作業に移る際にはディスポ手袋の交換時に手洗いをする事。



オーバーテーブル用のぞうきんは洗い場で水洗いをしてよく絞る。



決められた位置に文字が見える方向でかけておくこと。



バケツは水をためて何度かすすぎ洗いを行う。モップバケツも同様にすすぎ洗いを行い、元の場所へ戻しておく。